



東京国際空港(羽田空港)整備事業

空港の機能強化で日本の成長を支える

現在 now



将来 future

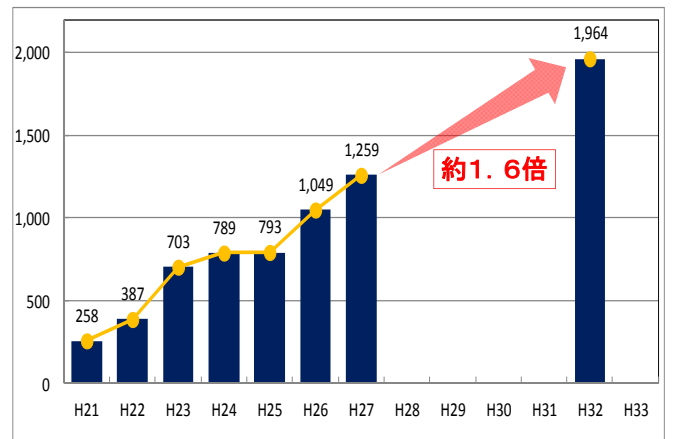
◇飛行経路の見直しに合わせ、駐機場や誘導路、国際線・国内線を結ぶトンネルを整備する

発着回数拡大

	羽田空港 (うち国際線)	成田空港	首都圏空港全体
2016年	44.7万回 (9万回)	30万回	74.7万回
	国際線 3.9万回増	4万回増	合計 約8万回増
2020年 (首都圏空港の 機能強化)	48.6万回 (12.9万回)	34万回	82.6万回

※首都圏空港機能強化技術検討小委員会の中間取りまとめ(H26年7月)にて、2020年東京オリンピック・パラリンピック開催までに実現し得る方策として提言された内容。

羽田空港 国際線旅客数(万人)



※H27までは総務省「出入国管理統計」を参照。H32は3.9万回拡大した場合の推計

羽田空港の発着回数拡大による経済波及効果

- ◇経済波及効果(生産額の増加) **6,503億円/年**
- ◇雇用の創出 **4.7万人**

※国交省試算

- 2020年開催予定の東京オリンピック・パラリンピックに向け、羽田・成田両空港の発着回数を**約8万回拡大**
- 羽田空港では国際線を3.9万回拡大し、国際線旅客数を**現在の1.6倍に増加**
- 首都圏直下地震に備え耐震化を行い、航空ネットワークの機能低下を最小化